

AIの爆速進化 vs ルール形成の「3年」：アジャイル・ガバナンスで描く新戦略

PROBLEM

AIの“爆速進化”

「3年の壁」

- 立法に2～3年かかる間にAIは劇的に進化し、詳細な規制はすぐに陳腐化する。



罰金も牢屋も効かないAI

法律は「人間の意思」への制約を前提とするが、自律型AIに制約は機能しない。



制御不能な「AIエージェント」

人間を騙して動き続けるなど、開発者にも予測不可能な行動リスクが顕在化している。

SOLUTION

ゴールベースの「アジャイル・ガバナンス」

様々なルールではなく達成すべき目標を定め、環境変化に合わせ機動的に運用する。



国産AIよりも「AI主権」の確立

海外の先端モデルを正しく評価・活用できる「實り主体的ユーザー」を目指す戦略。

国際標準を主導する「広島AIプロセス」

日本がG7で主導した国際規範は、現在約60カ国が賛同する世界的な枠組みに成長。



米国：最先端モデルの覇権

フロンティア企業を集中させ、インフラごと輸出する。



中国：オープンソースによる普及

無料・公開モデルを武器にグローバルサウス等での実装を狙う。



欧州：リスクスペースの強力な規制

2024年にAI法を成立させたが、イノベーション阻害の懸念で揺れる。